

《担当者名》教授 / 北市 伸義 nobukita@

【概要】

ヒトは外界からの情報の約80%を視覚情報として得ており、眼は非常に重要な器官である。歯科領域との関連が深い眼疾患も多い。視覚機能と主要な眼疾患の病態を理解する。

【学修目標】

視覚器の構造と機能を理解する。
主要眼疾患の病態を理解する。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	眼科総論 外眼部、前眼部疾患	眼球とその付属器の構造と機能、検査法を理解する。眼瞼、結膜、強膜、角膜疾患の病態及び治療について理解する。	北市 伸義
2	白内障、緑内障	白内障、緑内障の病態及び治療について理解する。	北市 伸義
3	全身疾患と眼	糖尿病、高血圧など全身疾患に関連する眼病変について理解する。	北市 伸義
4	網膜、ぶどう膜炎疾患	網膜疾患、ぶどう膜炎疾患などの病態及び治療について理解する。	北市 伸義

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

定期試験（100％）

【参考書】

「今日の疾患辞典」（デジタル版「Current Decision Support」は本学図書館にて無料利用可）

【学修の準備】

予習として、眼球の基本構造、基本的な用語の意味を理解しておく。（30分）
復習として、講義中疑問だった用語などをまとめておく。（30分）

【ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)との関連】

DP1. 安全で質の高い歯科医療を提供するために必要な専門知識に基づく問題解決能力と患者ケアのための診療技能とからなる専門的実践能力、および医療・医学研究の発展のために必要な情報・科学技術の活用能力を身につけている。

（専門知識に基づいた問題解決能力、患者ケアのための診療技能、情報・科学技術を生かす能力）

DP 2. 「総合的に患者・生活者を支える歯科医療」を提供するために必要な高い倫理観、他者を思いやる豊かな人間性および優れたコミュニケーション能力を身につけている。

（総合的に患者・生活者をみる姿勢、プロフェッショナリズム、コミュニケーション能力）

DP3. より安全で質の高い歯科医療を実践し社会に適応する医学を創造していくために生涯にわたって自己および他の医療者との研鑽を継続しながら医療者教育と学術・研究活動にも関与できる能力を身につけている。

（科学的探究、生涯に渡ってともに学ぶ姿勢）

DP 4. 多職種（保健、医療、福祉、介護）と連携・協力しながら歯科医師の専門性を発揮し、患者中心の安全な医療を実践できる能力を身につけている。

（多職種連携能力）

DP 5. 歯科医療の専門家として、経済的な観点・地域特性を捉えた視点・国際的な視野を持ちながら活躍できる能力を身につけている。

（社会における医療の役割の理解）

【実務経験】

北市 伸義（医師）

【実務経験を活かした教育内容】

眼科医師としての実務経験を活かした講義をすることで、歯科医療の現場で役立つ知識、技術、態度の習得に寄与する教育を実践している。